



平成28年 3月22日
 下越美術教育研究会
 事務局
 巻北小学校
<http://business3.plala.or.jp/kabiken/>
 印刷 文久堂



下越美術教育研究会会長 古田 修
 (五泉市立川東中学校)

図工・美術教育を支える 下越美術教育研究会の活動

本年度の下越教育美術研究会の活動を進めるにあたり、昨年度までの課題を踏まえ、各事業の目的を明確にして活動しました。

夏季実技研修として、元東京図工研究会理事 横内 克之様、新潟大学付属新潟小学校副校長 山田哲哉様を指導者に、明日から活用できる創作活動内容を指導いただいたこと。

県美術教育研究大会に、発表者として、新潟市立笹口小学校 椎野越子先生、新潟大学付属新潟中学校 田代豪先生が参加し、図工・美術の授業に地域とのかかわりやアクティブラーニングを重視したこと。

事務局を中心に、会員が協力し、総力を挙げて新潟教育アート展のさらなる充実を図ったこと。

「第十二回新潟教育アート展」表彰式の終わりの挨拶で、当会永井副会長が「みなさんの作品から、作品に込めた

声が聴こえてくる」とありました。子どもの思いや願いが込められ、そのように教師との対話から生まれた作品が寄せられたと強く確信しています。

そして、この展覧会は、多くの関係者の協働で成されています。全国各地から招聘の審査員の方々、事務局はじめ運営のみなさん、会場の新津美術館そして、日々子どもたちを指導している各学校です。展覧会を支えていただいた全ての方々に感謝いたします。

下越美術教育研究会では、年度末の理事会や新潟教育アート展実行委員会で活動の振り返りを行っています。今回は、仕事分担の片寄りや展示方法等、厳しい反省や次年度への提言がありました。これを基盤に、よりよい活動を目指します。そして、図工美術教育の振興と共に、指導力の向上に繋がる研修の場として、これからも下越美術教育研究会の充実を図っていきます。



新潟教育アート展の舞台裏
 《展示・撤去・発送》



第十二回新潟教育アート展 御協力ありがとうございました



事業部長 田代 豪
(新潟大学教育学部附属新潟中学校)

一月四日から十六日の十三日間の会期で、新津美術館の二階展示室を会場に、第十二回新潟教育アート展を開催しました。展覧会会期中は、およそ四千九百人の来場があり、おかげさまで盛況のうち終えることができました。これも各校園で広報していただいたお陰と、この場を借りて感謝申し上げます。

第十二回展では、二百七十八校園より出品をいただき、昨年度に続き二万点を超える作品の応募をいただきました。事務局は展示スペースの設け方を工夫して、多くの作品を見ていただけるように入賞数を決定しました。また新津美術館からご協力をいただき、来場される方々にとって見やすい展示となるように環境を整えました。

さて、審査会のことです。作品を審査された先生から「子どもの絵は見るのではなくて、聴くのです」という主旨のお話がありました。これがアート展の根幹だと思います。子どもの表したいという思いや願いを教師が支えて、指導した成果が作品となって表れ

ます。子どもたちの声と教師の声が作品に含まれているのです。だから、絵を聞くことができるのだと思います。子どもだけでなく、教師の主導でもなく、子どもと教師が共に共感し合いながら作品を生み出していくことが、造形活動の肝となるのだと思います。

そして、今年度も会員の先生方の積極的な取組に加え、アルバイトの学生、シルバー人材センターの皆様のお力をいただきました。これまでの経験を生かして、以前よりも作業の効率、正確さに向上が見られました。今後も、より内容の充実した展覧会を目指し、運営して参りたいと思っています。

次回第十三回展でも、より多くの方々より企画の段階からご尽力をいただければと考えております。そして、さらによりよい展覧会にできればと思っています。下越の図工・美術の先生方の力を結集し、地域の造形教育に貢献できるよう、本展覧会を発展させてまいります。今後ともご協力をお願いいたします。



グランプリ
受賞者



アート展表彰式 1月9日 ～新津美術館アトリウム～





新潟教育アート展の役割

下越美術教育研究会副会長 永井高志
(新潟市立越前小学校)

第十二回新潟教育アート展も、多くの学校から素晴らしい作品を寄せていただき、成功裏に終えることができました。新潟教育アート展は、幼児児童生徒の健やかな成長や図画工作・美術教育の発展に寄与したいとの願いからスタートしました。そして、例年、次の二つのことを重視して審査をしています。

一つ目は、技術的な精巧さよりも、思いや楽しさ等が伝わってくる作品、子どもの思いや願いが表出された作品であるということです。二つ目は、子どもと先生、指導者との対話から生まれた作品であることです。審査に当たられた大学の先生方のご発言の中で、私にとって大変に印象的な言葉がありました。そして、その言

葉は、どの先生方も共通して述べておられました。それは、「子どもの絵は見るとはなく、『聴く』ようにします。審査では、どの作品からも、子どもたちの声、そして、お話を聴くことができた。」というものです。つまり、入賞した幼児児童生徒の作品はもろろんのこと、新潟美術館に展示されたすべての子どもたちの作品からは、作者の思いや願いが「声」となって聴こえてくるように感じられるのです。丁寧に一枚一枚の作品をご審査いただきました審査員の先生方に、深く敬意を表するものであります。

新潟教育アート展が、これからの子どもたちの成長につながる活動であることを望んでいます。



平成27年度 下越美研事業報告

5月28日(木) 下越美術教育研究会
理事会・代議員会
(兼アート展実行委員会)

(新潟美術館)

7月9日(木) 県美術教育連盟理事会
(上越市高陽荘)

(新潟美術館)

8月7日(金) 第56回夏季実技研修会
新潟教育アート展実行委員会

(天寿園)

8月28日(金) 下越美術教育研究会会報
「夏月号」発行

9月11日(金) 第45回県ジュニア美術展
運営委員会
(新潟日報メディアシップ)

10月中旬 第12回新潟教育アート展
募集要項発送

11月11日(水) 第75回全国教育美術展
新潟地区審査会協力
(天寿園)

11月19日(木) 第55回関東甲信越静地区
造形教育研究大会 栃木大会
参加呼びかけ
(宇都宮市など)

11月21日(土) 第12回新潟教育アート展
(25日(水) 搬入)
(新潟美術館)

11月30日(月) 第12回新潟教育アート展
審査
(新潟美術館)

12月1日(火) 第46回県ジュニア美術展
審査協力
(県民会館ギャラリー)

12月25日(金) 第12回新潟教育アート展
展示作業
(新潟美術館)

1月4日(月) 第12回新潟教育アート展
(16日(土))
(新潟美術館)

1月9日(土) 第12回新潟教育アート展
表彰式
(新潟美術館)

1月17日(日) 第12回新潟教育アート展
搬出作業
(新潟美術館)

2月16日(火) 第2回理事会
新潟教育アート展実行委員会
第30回下越美術教育研究会を
語る会
(じよいあす新潟会館)

3月中旬 下越美術教育研究会会報
「春季号」発行

編集後記

会報「春季号」をお届けいたします。今号は、第十二回新潟教育アート展の舞台裏が垣間見える写真を多用しました。年に一度、会員が休日返上で結集して創り上げる新潟教育アート展。今や、校種にかかわらず、会員が共に展示会の成功を願って協働し交流する場となっています。より多くの方々に興味深く記事を読んでいただき、新たな同志が増える機会になってほしいと切に願っております。併せて、ホームページの方もどうぞご覧ください。ご一読いただき、ご意見・ご感想等をいただけたら幸いです。